

## 平成 24 年度杉田 SPIO 研究助成金受領者の近況 (モンゴルより)

長崎大学留学生 Misheelt Batjargal, M.D.

I am writing to express my sincere gratitude to SPIO for making the SPIO scholarship possible. I was thrilled to learn of my selection for this honor and I am deeply appreciative of the support.

I used to want to study in Japan from my childhood. My first visit of Japan was in 1999 when I was 16 and this country seemed to me a wonderland. After I emailed several professors of Japan, Prof Haruo Takahashi accepted me to stay in his department for 3 months and my dream came true. SPIO scholarship gave me a great opportunity to learn about ENT from Japanese honorary professors and really helped my stay in Nagasaki. Thanks to the SPIO scholarship I learned substantial diagnostic methods and treatment options of ear, nose and throat from Nagasaki University Hospital, Otolaryngology and head and neck surgery department. Everybody in the department was very intimate and friendly; all doctors were very skillful, experienced and kind. After I came back to my country I introduced a number of new technologies that I learned from Japanese ENT care to my department. Many Mongolian doctors have done and also are doing PhD in Japan. I always appreciate of friendly relationship between Mongolia and Japan.

Your generosity has inspired me to help others and give back to the community. I hope one day I will be able to help other doctors achieve their goal as just as you have helped me.



## 平成 25 年度戸田 SPIO 奨学金受領者 (米国より)

大分大学 川野 利明 氏

私は 2013 年 8 月よりアメリカのメリーランド州にある食品医薬品局 Food and Drug Administration (FDA) の研究機関である Center for Biologics Evaluation and Research において Research fellow として留学中で、渡米してはや 1 年半が過ぎました。戸田 SPIO 奨学金をいただき、留学時の物足りない時期に非常に助かったことを思い出します。ワシントン DC のすぐ北の White Oak という街に FDA の巨大な Federal Research Center があります。研究室は最新の設備が整えられており、周囲は森に囲まれ雑音が少なく研究するには最適の環境です。FDA は主に申請された食品、医薬品や生物学的製剤の評価や認可をする機関であり、研究者や連邦政府の職員をはじめさまざまな職種の人たちが働いています。一昨年の 10 月にはオバマ大統領と議会との衝突で約 2 週間の Government shutdown となり、研究が途中でストップして非常に困った状況も経験しました。

現在私は Division of Viral Products (DVP) というところに属しており、ここは新規ワクチン製剤の認可と研究をする部署となっています。また季節性ワクチンの作製のために CDC により世界中から集められたヒト血清の Serology を行い、WHO が毎年発表する次年度のワクチンの推奨株を決定するという大きな役割もあり、最初はそのダイナミズムに驚くことばかりでした。基礎研究としてはマウスやフェレットを用いて新型インフルエンザ、特に高病原性 H5N1 型のプレパンデミックワクチンの開発を行っています。アメリカでは感染症に対する新型ワクチン作製の意識が非常に高く、毎年のように新しいタイプのワクチンが申請・認可され、研究に対しての刺激となっているところです。

留学して最も苦勞したことは、やはり英語が話せない・聞き取れないことです。最初は (今もそうですが) 早い会話では内容を聞き落とすこともあり、同僚に迷惑をかけてしまうこともありました。ラボの同僚はみんないい人ばかりなので、今ではそれも私の個性として見てくれているようです!? Boss の Xie 博士は研究に対しては厳しい方ですがラボを出ると非常に優しく、夏休みには同僚の家族と一緒にご自宅に泊まりに行ったりもしました。またアメリカでは基本的に家族と一緒に過ごす時間を大切にするため、現地の方の家に招待され家族単位でパーティーに行ったりすることもあり、アメリカならではの習慣や行事を楽しんでいます。

最後になりましたがこのような充実した留学の機会を与えてもらい、御尽力いただいた戸田 SPIO 奨学金、大分大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科、鈴木教授・平野講師をはじめ医局員の先生方にこの場を借りて深謝申し上げます。



Labo メンバー：私は 2 列目の右から 2 番目